

副専攻「放射線総合科学」

被ばく医療連携推進機構 / 被ばく医療総合研究所

地域防災、エネルギー、放射線防護に関する知識を身に付け、
地域貢献やキャリア形成を目指してみませんか!!

防災士

+

弘前大学災害対応マネージャー

+

副専攻

本副専攻プログラムの目的

今後起こりうる複合災害について、過去の事例から災害予防、災害応急対策、災害復旧に加え、放射線及び関連する分野を複合的に学ぶことで、青森県を代表とする原子力関連施設を擁する地域の課題に積極的に取り組む人材を育成します。

被ばく医療総合研究所が福島県における復興支援活動を通じて培った教育・研究成果を活かし、放射線が環境や人体に及ぼす影響を正しく理解するだけでなく、喫緊のエネルギー問題についても考察します。**この学修により、青森県や同様に原子力関連施設を有する地域の課題を正しく理解し、地域のリーダーとして指導・実践する力を養います。**

副専攻「放射線総合科学」の特徴

1 資格等も取得できる段階的なカリキュラム構成

- Level 1** 日本防災士機構が認定する「**防災士**」の受験資格が得られる
(カリキュラム実施中に救急救命講習の修了証も得られる)
- Level 2** 単位修得時に弘前大学独自称号「**弘前大学災害対応マネージャー**」が付与される
- Level 3** 第3種放射線取扱主任者相当や放射線に係る総合的な知識の修得
- Level 4** 卒業時に**副専攻：放射線総合科学の修了証**が授与される

2 学内外の専門家による授業

協力学部・大学院

- 医学部
- 理工学研究科
- 地域共創科学研究科
- 災害・被ばく医療教育センター

海外協力大学

- コロラド州立大学 (アメリカ)
- チュラロンコン大学 (タイ)

学外協力機関

- 青森県
 - 公益財団法人環境科学技術研究所
 - 日本原燃株式会社
 - 東北電力株式会社
 - J-POWER 電源開発株式会社
 - 原子力規制委員会原子力規制庁*
- ※原子力規制委員会原子力規制庁「原子力規制人材育成事業」に採択

3 専門機関へのインターンシップと成果報告会への参加

学外協力機関(青森県, 原子力関連施設, 原子力規制庁)へのインターンシップに参加し, 貴重な体験が得られます。最終科目では, 学外の専門協力機関の前で成果報告会を行い自身の学習成果を確認できます。また, 海外の協力機関(アメリカ, タイ)において, インターンシップを行うことができます。(旅費の一部を支援します。)

放射線総合科学のカリキュラム(教養教育科目)

副専攻「放射線総合科学」修了に必要な科目・単位(16単位)は、各学部で定める教養教育科目の必修科目・単位の扱いにもなりますので、効率的に時間割を組み立ててください。

科目群	授業科目名	学期	曜日 時限	単位数	必修	選択 必修	概要
自然・科学	環境と生活(防災科学)	前期	金曜日 9・10時限	2	2		LEVEL1 2科目修得で防 災士の受験資格
人間・生命	医学・医療の世界(災害医学)	後期	金曜日 9・10時限	2	2		LEVEL2 3科目修得で弘 前大学災害対応 マネージャー称 号付与
グローバル	持続可能な開発目標SDGs(原子力災害の理解)	後期	火曜日 9・10時限	2	2		LEVEL3 エネルギー問題 や放射線に関す る総合的な知識 を修得する科目。 第3種放射線取 扱主任者相当の 内容も学習。
自然・科学	物理学の世界(放射線防護概論)	後期	月曜日 5・6時限	2	左 から 6 単 位 以 上 ★	★ と ☆ の 合 計 10 単 位 以 上	必修・選択合 わせて16単位修得 で副専攻の修了 証を授与
グローバル	地球環境・気候(エネルギー地球環境学概論)	前期	火曜日 7・8時限	2			
自然・科学	生物学の世界(被ばく影響学概論)	前期	木曜日 5・6時限	2			
グローバル	地域の経済・産業(原子力行政概論)	後期	木曜日 7・8時限	2			
キャリア	キャリアデザイン(原子力安全システム学)	前期	集中	1	左 から 2 単 位 以 上 ☆	★ と ☆ の 合 計 10 単 位 以 上	LEVEL4 学外協力機関(青 森県、原子力関連 施設、原子力規制 庁)へのインター ンシップに参加
キャリア	キャリアデザイン(放射線防護実践演習)	前期	集中	2			
キャリア	キャリアデザイン(原子力防災実践演習)	後期	集中	1			
キャリア	キャリアデザイン(海外放射線科学実践演習)	前・後期	集中	各1			
グローバル	国際地域・社会・文化(国際放射線科学特論)	後期	集中	2	左 から 2 単 位 以 上 ☆	★ と ☆ の 合 計 10 単 位 以 上	発展的科目 放射線について、より深く学びたい、例えば保健学 研究科(被ばく医療コース)に進学を希望する学生に 取得してほしい科目
キャリア	キャリアデザイン(原子力規制特別演習)	後期	集中	2			
自然・科学	化学の世界(環境放射生態学演習)	後期	集中	2			
自然・科学	物理学の世界(環境放射線計測学演習)	前期	集中	2			
自然・科学	生物学の世界(放射線生物影響モニタリング学演習)	前期	集中	2			
グローバル	国際地域・社会・文化(国際放射線科学演習)	後期	集中	2			
合計							

被ばく医療連携推進機構長からの副専攻のススメ

青森県には多様な原子力関連施設が立地しています。最近では自然災害も多発しており、さらに海外でのミサイル開発や軍事侵攻など不安定な情勢を鑑みると、有事に備えた対応が強く求められます。放射線に関連する分野では、放射線から身を守るための学問、すなわち「放射線防護」を専門とする人材が慢性的に不足しており、社会的にも国際的にも大きな課題となっています。このような課題を解決すべく、被ばく医療連携推進機構では、教員の専門分野や充実した設備を「研究」のみならず、「人材育成」にも有効に利活用するため、「放射線」について包括的に基礎から応用、実践までを学ぶことができる副専攻「放射線総合科学」を開講しています。

本副専攻では、教育機能をさらに拡充すべく、政府機関、自治体、研究機関、そして関連企業の専門家の方々にも参画いただき、多様な分野に渡る講師陣によるカリキュラムを構築しました。学生の皆さんには、この副専攻の履修を通して知識やスキルを習得し、青森県に限らず同様な地域課題に取り組む文系・理系にとらわれない社会人になってほしいと願っています。

本副専攻修得後に、この分野の研究者や技術者になりたいと思う学生の皆さんには、卒業後に大学院保健学研究科・被ばく医療コースに進学して、この分野の知識や技術をさらに高めていただきたいと思います。



被ばく医療連携推進機構 機構長
床次 眞司

問合せ先

弘前大学被ばく医療総合研究所事務室

Mail: jm5401@hirosaki-u.ac.jp TEL: 0172-39-5401